



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第23号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ：「キリストは神を説き明かす」エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り 19「高度な能力を持っていたネアンデルタール人」
- ◎箴言から学ぼう！：「神さまに心を与えていくときに・・・」
- ◎詩篇を読む：「助けを必要とする人に、手を伸ばしてくださる神さま」
- ◎キリストを信じた体験談：「本当に価値のあるもの」
- ◎聖書に関する偉人のことば：南原繁
- ◎ご案内：聖書贈呈

<聖書からのメッセージ>

「キリストは神を説き明かす」 by エレミヤ

本日は「キリストは神を説き明かす」という題でメッセージしたいと思います。

テキスト：ヨハネによる福音書 1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

このテキストに沿って順に見ていきましょう。

<いまだかつて神を見た者はいない>

世界の多くの人が神について語ります。しかし、聖書はいまだかつて神を見たものは誰もいない、どこにもいないことを語ります。ですので、たとえ人が神について語ってもそれは、憶測や想像に過ぎません。誰も神を見

たことがないので、結局は正確なところは、わからないのです。神は確かに存在しておられるでしょう。それは、神の創られた自然や動物、人間などを通してわかります。どのようなロボットより、精巧に完璧に創られた人間が偶然で生まれたはずはありません。確かに人を造り、動物を造り、自然を造られた神は存在しているのです。しかし、その神とはどのような方なのか？残念ながら、誰も神を見たことがないので、正しく説明する人も、神について教えてくれる人もいないのです。

<神のひとり子>

さて、このような状況なのですが、しかし、上記テキストは、このこと、神を見ることに関して例外的なことを語ります。すなわち、ただひとり、この目に見えない神という方を正しく解き明かし、私たちに説明してくれる人が存在していることを語るのです。

「キリストは神を説き明かす」エレミヤ

それは、他ならないイエス・キリストのことです。このキリストに関して上記テキストは、「神のひとり子」と語ります。このひとり子という原語の意味合いは、「たった一人生まれた、唯一の子」という意味合いです。すなわち、神にはたくさんの子がいるわけではなく、たった一人の子供しかいなかった、そのひとり子こそ、イエス・キリストである、そのような意味合いがあるのです。

このこと、神はたった一人の子を持っておられ、それがイエス・キリストである、このことは大事な聖書のポイントであり、聖書はこのことを強調しています。いわば、他の人では代替できない、代わりのきかない特別な位置にキリストはおられるのです。誰一人見たこともない神、その神と特別な関係をキリストはもっている。すなわち、父なる神のたった一人の子の位置にキリストはおられると聖書は語るのです。

そして、このこと、イエス・キリストのみが神のたった一人の子であることは重要なことなので、聖書はこのキリストのユニークさ、特別さを色々な形で語り、説明しています。たとえば、聖書の預言です。聖書は、イエス・キリストの誕生、働き、さらに十字架の死に至るまでの生涯を、300以上の預言を通して預言しています。キリストが誕生する時から、何百年も前に預言されたことばが、みな正確に成就したのです。

この様に詳細に預言された人は聖書の中では他にいません。いや、聖書の中といわず、歴史上にも他には存在していないでしょう。さらにキリストはその生涯の中で、多くの人をいやしたり、また、5000人の給食の様に多くの奇跡を行っています。このことも大きな特徴です。さらに極めつけの特徴はキリストが十字架上で死なれた後、3日後に復活して生き返ったことです。この様に聖書

は、また聖書を書かれた神は、イエス・キリストこそ神のたった一人の子、ひとり子であることを私たちに語り強調します。

<神の子>

神の子ということも考えてみましょう。当たり前のことですが、子供は親に似るものです。犬の子は、親犬に似て、尻尾を振って、よく走ります。ブルドック犬の子は親に似てガニ又で歩いたりするものです。同じ意味あいで神のひとり子であるイエス・キリストも親である神様に似ています。キリストご自身も「私を見たものは、父を見たのです」ヨハネ14：9として、キリストを見ることはすなわち、父なる神を見ることに通じると述べました。

ですので、イエス・キリストの行ったこと、語ったことを通して、私たちが神を知ったり、理解することは正しいのです。というより、イエス・キリストはそのために来られたのです。

<ひとり子が..... 神を説き明かしたのである>

世界には多くの方がいますが、しかしその中でたったひとり、神のひとり子であるキリストが、神を解き明かしたことが描かれています。ですので、他の人の説明でなく、この神の唯一の子であるキリストの説明こそ、神に関する正しい説明であり、神に関する誤りのない説明なのです。以下のキリストのことばは、神とはどのような方であるかを語るものです。

マタイ 5:43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

「キリストは神を説き明かす」 エレミヤ

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。

5:45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。

ここではキリストにより、天の父なる神について「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださる」方であることが語られています。神とはわけ隔てのない、また悪い人をも簡単には見捨てない、愛の方であることがわかるのです。

マタイ 6：6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

ここでは、天の父なる神が私たちの祈りを見ておられること、人に見えないところでの祈りでも父なる神はきちんと見てくださる、公平な方であることがわかるのです。さて、この神に関しては以下の様にも語られています。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ここでは、神がひとり子であるイエス・キリストを何故、十字架にかけ、殺されることを許したのか、その理由が書かれています。神は全能者なので、大事なひとり子であるキリストを十字架にかからないよう阻止することもできたでしょう。しかし、神はあえてそ

うしました。何故でしょう？その理由は神が愛であるからです。私たちが滅びないために、あえて自分の子供の命を犠牲にされた方、その方が神様なのです。私たちには今生きている人生しか見えていないかもしれません。しかし、聖書は明らかに人が誰でも死後に裁き、すなわち、裁判を受けることを語ります。以下のことばの通りです。

ヘブル:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

裁判の結果、私たちはこの人生で犯した罪をすべての罪を火の池の罰で償うことをも聖書は語ります。以下のとおりです。

黙示録 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

私たちの誰ひとり、自分の人生で罪を犯さない人はいません。そういう意味では私たちは誰も彼も火の池で自分の罪を償うべき存在なのです。しかし、神は愛なので、私たちの罪を自分の子である、キリストの上に負わせました。このキリストを信じ、いのちの書に名前の記された人はこの火の池の罰から免れます。この方を信じましょう。



キリストの十字架

高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り 19 「高度な能力を持っていたネアンデルタール人」

ネアンデルタール人は進化論によれば、原始的な人間であり、進化途上の人間であり、高度な作業など行えなかった、ということになっています。しかし、最近のフランスにおける発見はこの進化論の理論を覆すものとなっています。原始的な行動しかできなかったはずの、ネアンデルタール人が高度な作業や、組織的な仕事をこなす能力を持っていたことを証明する発見となっているのです。進化論は歴史や、考古学に合致しない架空の論理であり、ただの空論であることがまた証明されてしまいました。以下紹介記事から：

フランスの洞窟の奥深くに先史時代の人々が作った神秘的なストーンサークルが、長い歳月を経て闇の中から再び姿を現した。5月25日に科学誌『ネイチャー』に発表された論文によると、この奇妙なストーンサークルは約17万6000年前のもので、石筍を並べて作られている。考古学者の推測によると、これをつくったのが二足歩行の動物であったとすると、年代からしてネアンデルタール人としか考えられないという。この構造物は、ネアンデルタール人が予想よりはるかに高い能力を備えていたことの証拠となる。

英ロンドン自然史博物館の古人類学者クリス・ストリンガー氏は、「この発見は、ネアンデルタール人が石づくりの構造物を設計して建設する能力を備えていたことと、人工的な照明がなければたどり着けない洞窟の奥深くまで入って行けたことを示しています」と指摘する。ネアンデルタール人がわざわざ深い闇の奥に分け入り、手の込んだ謎の構造物をつくった理由は、少なくとも現時点では不明である。洞窟の300メートル奥の暗闇で このストーンサークルが見つかったのは、フランスのブルニケル洞窟。壁画洞窟やその他の旧石器時代の遺跡が散在する同国南西部に位置している。この洞窟は、更新世に入り口が崩れてからずっと封印された状態にあったが、1990年に洞窟探検家が入り口を掘って中に入った。洞窟の入り口付近では、大昔に絶滅したホラアナグマやその他の絶滅した大型動物の痕跡が見つかった。しかし、真の宝物は、入り口から336mも奥に進んだところのじめじめした空間にあった。それ

は、石筍を円のような形に層状に並べた、いくつもの大きな構造物だ。これらの構造物が、なんらかの目的のために並べられたものであることは、誰が見ても明らかだろう。2013年、ジョベール氏のチームは、ついにブルニケル洞窟の秘密に光を当てることができた。この遺跡は私有地の中にあり、フランス政府が管理していたため、「非常によく保存されていて、中に入った人はほとんどいませんでした」と彼は言う。「構造物は壮観で、同じ時代のほかの遺跡はもちろん、もっと新しい時代の遺跡にも、これに比肩するものはありません」

謎の構造物は、400個近い石筍を並べてつくられている。石筍とは、鉱物を豊富に含む水が洞窟の天井から床にしたたり落ち、長い年月の間にタケノコの形のように固まったものである。石筍はほぼ同じ長さに切り出されていて、一部は直径約6.7mの大きな円形に並べられている。ほかの石筍はやや小さい半円形に並べられ、残りは山積みされている。並べられた石筍の一部は赤と黒に変色してひびが入っていて、上で火が焚かれたことを示していた。また、小さい円形構造の近くでは、クマや大型草食動物の炭化した骨片も見つかった。ジョベール氏らは、洞窟内にこれだけ巨大な構造物をつくるためには、安定した光源と、ある種の社会組織と、2トン以上の石筍を並べてパターンを作ることを思いつき、実際にそれをつくる能力が必要だ、と主張する。「ストーンサークルをつくるには、選択を行い、集団を率い、助言をし、人々を動員できる必要があります。安定した光源も必要です。それができたということは、この時代に構造化された社会があったことを示しています」



ストーンサークル

箴言から学ぼう！「神さまに心を与えていくときに…」

〔聖書箇所〕箴言23:26

23:26 わが子よ。あなたの心をわたしに向けよ。
あなたの目は、わたしの道を見守れ。

こちらの箇所で、「**あなたの心をわたしに向けよ。**」ということ言われています。ちなみにKJV訳の聖書では、「あなたの心をわたしに与えよ。」とあります。「**わたし**」とは、神さまのことを言われていますので…つまり、神さまに心を与えていきましょ！ということを述べております。

そして、もし、神さまに心を与えていくというときに、どういったことが実現するのか？と言いますと…「**わたし(神)の道を見守れ。**」と書かれていますように…神さまの道、つまり、永遠の命の道を歩んでいくことが出来るのです。

このことに関して、このようなたとえがピッタリかどうかは分かりませんが…たとえば、子どもの頃、お年玉をもらった経験のある方が多いかと思いますが…その時に、親御さんに、「ねえ。そのお年玉を一旦、お父さんとお母さんに預けてみない？」と言い寄られたとします。しかし、子どもの立場から言わせると、せっかくもらったお年玉なんだから、好きなように使いたい！と思いますよね？でも、不承不承であっても、親御さんの言う通りにしてみたところ…しばらくして、もらったお年玉以上の金額を親御さんから手渡されました。なんと、そのお年玉を銀行に預けてくれたので、いくらかの利息が付いていたのです。そうすると、どうでしょうか？親御さ

んに預けて、本当に良かったなあ…と思うのではないのでしょうか？

天の父なる神さまも同じではないかと思います。神さまに心を与える、なんて言うと、一見、何も得をする感じがしませんよね？しかし、そうではなくて…神さまに心を与えていくときに、「永遠の命に至る道」を歩ませていただくことが出来、その延長線上において、「天国」に入れていただくことが出来るのです。

もし、わずかでも、神さまに心を与えていこう！と思われた場合に…極端な言い方をすれば、瞬時から、神さまが働いてくださり…あらゆる方法で、ああしたほうがいいよ～、これはこうしてみたら？とか、あるいは、これはやめて、こんな風に変えていきましょう…なんていう風に、必要なことを色々教えてくださり…そして、その通りに実行していくときに、「永遠の至る道」を歩むことが出来るのです。

もし、そうかも知れないなあ…なんていう風に思われましたら、実践してみてください。



お年玉

詩篇を読む: 「助けを必要とする人に、手を伸ばしてくださる神さま」

〔聖書箇所〕詩篇17:1-3

17:1 主よ。聞いてください、正しい訴えを。耳に留めてください、私の叫びを。耳に入れてください、欺きのくちびるからでない私の祈りを。

17:2 私のためのさばきが御前から出て、公正に御目が注がれますように。

17:3 あなたは私の心を調べ、夜、私を問いただされました。あなたは私をためされましたが、何も見つけ出されません。私は、口のあやまちをしまいと心がけました。

今回は、日曜日の礼拝の中で、エレミヤ牧師がメッセージされていたことの一部を紹介させていただきたいと思います。

礼拝のメッセージは、基本的にはクリスチャン向けとなっているのですが、しかし、ノンクリスチャンにも大いに該当する事柄もありますので・・・そして、今回の箇所におきましては、まさに、そうなのではないかなあ・・・と思いましたので、よろしければ、お読みください。

以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

上記みことばは、どんな背景に基づいて書かれているのか？と言うと・・・ダビデがサウル王に追いかけて、攻撃されて、神の前に訴えを出して、そして、そのお祈りが聞かれた、という場面です。

こんな風に・・・私たちも色々な大変なことを通ることがあるかも知れませんが・・・しかし、そのような時には、この時のダビデのように、神さまの前に訴えを出していきたいと思います。

しかし、その際に、私たち自身に何か罪があるとダメです。でも、私たちが正しいなら、神さまは正しく裁いてくださいます。そして、「あなたは私をためされましたが、何も見つけ出されませ

ん。」とありますように・・・ダビデは何も落ち度が無かったので、守られました。

ですので、私たちがダビデのように、理不尽な目に会っても、神さまの前に必要なことを求めていきたいと思います。

以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされていたのですが・・・生きてると、日常的なことをはじめとして、あらゆる事柄が起きてきますよね？そして、その中には、「なぜ、このようなことが起きるのか？」と首をかき上げてしまうようなこともあるかも知れませんが・・・

でも、そのような時には・・・エレミヤ牧師が語っていましたように、神さまの前に訴えていきたいと思います。どのようなことであっても・・・唯一、神さまは、私たちの身の上話を静かに聞いてくださり、また、解決する力がありますので・・・さらに、その状況に合わせて、助言をくださったり、場合によっては、形勢を変えてくださったりしますので、よろしければ、ぜひ、お勧め致します。もし、何かお困りのこととか、悩んでいることとかありましたら、実践してみてください。色々悩みや困難の中に置かれているすべての方々に、神さまからのベストな解決が与えられますように、陰ながらお祈りしております。



ダビデ

キリストを信じた体験談 「本当に価値のあるもの」

大分前のことです。洗礼を受けて1,2年位経ってからのことですが・・・その頃、日曜日の礼拝が終わったあと、ほぼ毎週のように、夕方から始まるキリスト教の集会に通っていました。

その時に、牧師さんがメッセージの中で、このように話していました。「皆さん、神さまと私たちクリスチャンの関係は、地上と天国をつなぐベルトで結ばれているようなものですよ。」と。

そのことに続いて、「そうそう。この間ね。ある人から聞いた話があります。その人は保母さんをしている方なのですが、先日、彼女はお金の価値をお子さんたちに教えていたそうです。でも、その中のひとりのお子さんが、なかなかそのことを理解してくれなくて、困っていたそうなんです。そのお子さんに何度教えても、500円玉よりも、10円玉のほうが良い、と言うそうなんです。それで、その保母さんは聞いたそうなんです。『どうして、10円玉のほうがいいと思うの？』と。するとそのお子さんは、『僕はお父さんと、普段離れて暮らしている日が多いから、とても淋しいんだけど・・・でも、10円玉があれば、これで電話をして、いつでもお父さんの声を聞くことができるから。』と答えたそうです。それを聞いた保母さんは、びっくりして、何も返すことばが無かったそうですが・・・それでねえ、このことを通してねえ・・・天の父なる神さまと私たちとの関係も同じようなものなのではないかなあ、と思いました。色々大事なものはあるかも知れませんがね。また、時として失うものもあるかも知れませんがね。でも、天の父なる神さまのことだけは、決して失わないでくださいね。そのお子さんとお父さんがそんな風にいつもつながっているように・・・皆さんもね、いつも、天のお父さま(神さま、イエスさま)ときちんとながついでてくださいね。」ということをおっしゃっていました。

このお話を思い出しながら、そして、文章を書きな

がら、聖書に、「人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」(マタイの福音書16章26節)ということばがあることを、ふと、思い出したのですが・・・

「まことのいのち」とは、「永遠のいのち」のことを言われていて、そして、上記のみことばは、もし、全世界を得ることが出来ても、しかし、永遠のいのちを失ってしまったら損ですよ～、ということをおっしゃっているのですが・・・

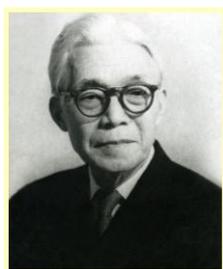
もちろん人それぞれの価値観がありますし、この世において、色々素晴らしいものも沢山あると思うのですが・・・しかし、聖書において、真に価値のあるものは、「永遠のいのち」だということをおっしゃっています・・・

また、人は死んで、それで終わりではなくて、聖書に書かれていますように、「人には一度死ぬことと、死後にさばきが定まっている。」(ヘブル人への手紙9章27節)ということをおっしゃっていますので・・・日々、神さま(イエスさま)につながって、聖書でお勧めしている真に価値のあるもの、「永遠のいのち」に心を留めていくことは、とても大事なことではないのかなあ・・・という風に改めて思いましたので、お話をさせていただきました。感謝いたします。



電話機

聖書に関する偉人のことば:



南原繁なんばらしげる:(政治学者、東京大学総長)

「どれほど神仏に祈っても、しよせんは自分の無事幸福か、せいぜい家内安全を願うことに止まった私の心が、いまや、(聖書の語る)自分の罪を知り、それからのあがないとゆるし、神の御旨へと向けられるようになった。...私は、家庭において日曜日ごとに家族らに聖書の研究や話をした...」

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント!

月刊バイブルお読みになっただけでいかがでしたか?少し、聖書に興味をわいてきましたでしょうか?このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか?ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.comもしくはfax:020-4623-5255もしくはtel:042-364-2327へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:



●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30、午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>